

第18次いわき市水道事業経営審議会第4回議事録

1 日 時 令和4年9月22日(木) 午後2時00分～午後4時30分

2 場 所 水道局3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員 (出席：11名)

今井滋、上遠野恭子、金田晴美、河合伸、佐久間幸子、鈴木俊彦、鈴木礼子、
原田正光、古川広子、堀江一到、山田隆

(欠席：4名)

石山伯夫、草野充宏、熊田哲也、菅原啓史

※50音順・敬称略

(2) 事務局 上遠野管理者、大津局長、則政次長、佐藤次長、阿部総務課長、
秋山人材育成・防災力向上担当課長、佐野経営戦略課長、吉田営業課長、
横田配水課長、緑川工務課長、小山浄水課長、本村南部工事事務所長

○経営戦略課

齋藤主幹、鈴木補佐

[企画係] 内田係長、金成主任技査、齋藤主査、湯澤主事、國分主事

○配水課

[庶務係] 稲村係長

4 会議形式 公開

5 傍聴者 0名

6 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

ア 第3回審議会の議事録(案)について

イ いわき水みらいビジョン2031について

(4) その他

(5) 閉会

7 審議事項

※ 前回(第3回)で質問のあった、水道施設総合整備計画(水道施設停電対策計画)における対策レベルについて、「補足説明資料」により、事務局から補足説明を行った。

<審議要旨>

○ 委員から、「施設の重要度が全て基幹(水道施設)になっており重要度の変化がない中で、重要度に応じた対策レベルが『A』『B』と分かれているが、重要度に応じた対策レベルが本来の施設の重要度を示しているのではないか。また、対策レベルに応じた実施内容は、対策レベルではなく実施レベルということではないか。」との意見があり、事務局から「適切な時期に表現を変える。」と回答した。

(1) 第3回審議会の議事録（案）について
第3回の議事録が了承された。

(2) いわき水みらいビジョン2031について
＜事務局説明＞

○資料5「いわき水みらいビジョン2031」に基づき説明を行った。

＜審議要旨＞

○委員から、「基本理念に～安全でおいしい水を必要なだけ～とあり、施策を見ると安全については非常に管理もしっかりしているようだが、おいしさの追求という部分については安全に比べて施策が少ないと感じた。」との意見があり、事務局から、「事業No.4安全でおいしい水道水の調査研究の施策の中で、追加塩素注入設備により浄水場から末端の給水地域までの残留塩素濃度の均等化を図っている。平成4年度に厚生省（現厚生労働省）が設置したおいしい水研究会による『おいしい水の要件』の中で、残留塩素濃度の項目は0.4mg/l以下とされている。以前は平浄水場付近では0.8mg/lだったが濃度の均等化を図り、0.4mg/l以下となるよう施設の整備を進めてきた経過がある。」と回答した。

○委員から、「事業No.15水道施設のダウンサイジングの検討について、管路の単線化とはどういうことか。」との質問があり、事務局から、「道路の両側に管路が布設されているものを更新する際に片方だけの管路を更新し延長を減らすということになる。」と回答した。

○委員から、「施策30求められる情報の積極的な提供とお客さま意見の把握について、SNSの取組状況はどうなっているのか。また、ぜひ発信を行い、市民への情報提供を行っていただきたい。」との質問があり、事務局から、「令和4年10月を目途に水道局独自のTwitterの公式アカウントを取得し、各種イベントをはじめ、様々な広報を行っていく予定である。」と回答した。

○委員から、「いわき水みらいビジョン2031の総事業費はどのくらいの規模になるのか。」との質問があり、事務局から、「本日説明した、安全、強靱、持続というビジョンの施策の事業費の総事業費は10年間で790億円、施策にかかる事業費以外の人件費や企業債の支払い等の費用を含めた財政収支計画の費用は、10年間で1,658億円となるが、総額が資料に記載されていないこともあるため、財政収支計画の総事業費とビジョンの総事業費の関係が分かる資料を作成し、次回説明する。」と回答した。

○委員から、「財政収支見通しの支出について、電力費等、その他の経費も物価が上昇していることを踏まえて、今後の検討をお願いしたい。」との意見があった。

○委員から、「説明のあった施策について、事業費が0円の事業がいくつかあるが、どういうことか。」との意見があり、事務局から、「職員が直営で実施する事業を0円と表示している。」と回答した。

○委員から、「事業No.60お客さま意識調査等の実施について、過去のアンケート調査結果では水道に期待するものとして、水質の安全性に多くの市民の方が興味を示しているようだが、物価が上がっていく中で、今後は、料金という部分の割合が高くなるのではないかと感じている。今後、料金値上げが必要な状況を市民にどう説明していくかというところで、SNS等も活用し、より分かりやすく行うことにより広報紙に興味のない市民に対し

て少しでも意識を向けてもらうための努力も必要になるのではないか。」との意見があり、事務局から、「アンケート調査結果では、料金よりも災害に強い水道を作ってほしいという声もある。また、市民の皆様のニーズを把握することを目的に、現在実施しているインターネットによるアンケートのほか、今年度は市民の皆様から1,000人を無作為に抽出し実施するアンケートを行う予定である。それらの結果がまとまれば審議の参考にしていただきたいと考えており、ニーズを的確に把握して今後の事業展開につなげていきたい。」と回答した。

○ 委員から、「事業番号 No. 35 水道施設情報管理のシステム化の検討について、令和4～13年度までの10年間検討するとあるが、時間がかかり過ぎではないか。」との質問があり、事務局から、「現在、管路、ポンプ場、配水池等の水道施設については全てコンピュータ管理しており、既にシステム化されている。さらにシステムの高度化について検討していくという意味で検討としている。」と回答した。

○ 委員から、「事業 No. 43 効率的な組織機構の検討と適切な人員管理について、具体的にどのようなことを行うのか。」との質問があり、事務局から、「組織体制の構築の面から、昨年度は新たなビジョンを推進するにあたって非効率的な点がないか検討し、事務分掌の整理を行った。今後は、新たなビジョンを1年間実施した上で、非効率的な点がないか再検証を行い、必要に応じて事務分掌や組織の見直しについての検討を継続していく。」と回答した。

○ 委員から、「事業 No. 53 I C T活用による業務の効率化の検討について、お客さまサービスの向上という視点での検討はしないのか。」との質問があり、事務局から、「いわき市全体としての取組となるが、令和4年7月から電子入札システムの稼働を開始し、電子入札の拡大に努めている。それ以外の部分では、昨年からはキャッシュレス決済にて水道料金の支払いを可能にしたところであり、お客さまのニーズに合った形でのサービス向上に努めている。

また、D Xの取組として、他事業体で先行して実施している取組もあるが、本市としては、国を主体に全国的に取り組もうと検討しているD X戦略の取組の中での共通フォーマットを活用するなど、可能な限り費用をかけずにお客さまサービスの向上を図れるよう努めていく。」と回答した。

(3) その他

○ 次回の審議会について

- ・ 日時 令和4年12月21日（水） 午後2時から
- ・ 場所 水道局3階 第1会議室

9 閉 会